

# 本年度これまでの主な中高連携実践と行事



「高校英語入門講座」を開講  
(町内中学校3年生が希望参加)



油木高の先生による出前授業  
(油木中生徒への花植え指導で)



産業ビジネス科生による出前授業  
(フラワーアレンジメントの指導で)



中高合同による部活動練習  
(サッカー部)



中高合同による部活動練習  
(ソフトテニス部)



小中学生参加の油高杯剣道大会



産業ビジネス科オープンスクール  
(油高生徒が案内役)



油木高での授業体験(化学科)  
(町内中学校3年生全員参加)



中学3年生の親子進路学習会  
(油木高校の説明を教頭先生が)



中高一貫教育講演会の開催  
(高階玲治先生を講師に迎えて)



連携型中高一貫教育支援会議総会  
(55名の参加を得て開催)



連携型中高一貫教育先進校の視察  
(広島県立加計高校芸北分校にて)

# 神石高原町連携型中高一貫教育ジャーナル

# 高原の風

第5号  
2012.12.15

## —地域貢献する油木高校生—



東日本大震災でイチゴ被災農家へミツバチ15万匹を贈る



地域のイベントに参加する油木高校野球部



# 神石高原町連携型中高一貫教育推進協議会

～ 地域の教育力を生かしながら、生徒一人一人の能力や可能性を伸ばし、  
確かな学力の定着をめざすと共に、ふるさとを愛する心や未来を拓く人材を育成する。～

## 連携のテーマ 共創の教育で、町の未来を拓く生徒の育成

「共創の教育」とは

学校・家庭・地域が共に子どもの教育に関心を寄せ、支援していく営み。

### スイスでの活動報告

### 将来へ夢膨らませ

### 高校生平和大使 川崎 有希さん

核兵器廃絶と世界平和を訴える第15代「高校生平和大使」として、8月にスイスを訪問した普通科3年、川崎有希さんがこのほど、ヒューマンフェスタ2012 in 神石高原で活動報告の発表をし、平和貢献への意欲を高めた貴重な体験を振り返りました。



国連欧州本部 川崎さん（左）

川崎さんは活動を通じて将来の夢を膨らませたそうです。「小学校の教師になって、平和学習をできるようにになりたい。」と語っていました。

### 東日本大震災復興支援

### ミツバチ支援で被災地へ

### 油木高生 飼育法伝える 宮城

授粉用ミツバチ15万匹を贈った宮城県を訪れた油木高の一行は、東日本震災で津波の被害を受けたイチゴの生産農家を回り、ミツバチの飼育法を伝えました。一行は、大石あす香さん、河上さくらさん、横山晴美さん、産業ビジネス科の3年生3人と宮本紀子教諭。寄贈を仲介したJAみやぎ亘理の職員の家内で、9割を超える生産者に被害が出た亘理町と南隣の山元町の農家5戸を回りました。高さ約2.5mの津波を受けて栽培のビニールハウスが全壊し、先月再開したイチゴ農家の農場では、3個の巣箱の中心を点検。一緒に贈った



入学生代表宣誓をする矢田貝君

生徒は「無事に手渡せてほっとした。農家の笑顔と諦めない姿が心に残った。支援は後輩に引き継ぎたい」と話していました。



巣箱を積み込む生徒

《平和スピーチ（原文のまま）をご紹介します》

私は、広島県から参加した、川崎有希です。私の曾祖父二人は、戦争体験しました。今日は、そのうちの一人である曾祖父の被爆体験の話をします。

曾祖父は、1945年8月6日の原爆投下後、広島市から110キロ離れた家から遺体処理班として参加しました。そして、原爆による放射能を浴び、間接被爆者となりました。その後、曾祖父が戦争のことを家族に話すことはありませんでしたが、20年前に、1回だけ、私の叔父に泣きながら、打ち明けたそうです。それは、原爆投下直後の広島は、まさに「地獄絵」でした。焼け爛れた人、火傷を負って性別も判別できず、真っ黒こげの人でいっぱいでした。救護のために歩いていると、「熱い・・・、水をくれ、喉が渇く・・・」と声をかけられ、多くの人が助けを求めました。しかし、何もできない曾祖父は、メリケン粉を水で溶かし、火傷した皮膚に静かに当てました。「ありがとう」と手を合わせて、また静かに息を引き取る姿を目の当たりにし、涙がとまりませんでした。

この1回限りの話を、その後誰も聞いていません。その後、広島から帰宅した曾祖父は、故郷に帰っても体調が悪化し、抵抗力がなくなり、難聴となり、発熱や食欲不振で、最後まで「原爆症」で苦しみました。

私は今まで、広島に生まれ、育ったにもかかわらず、戦争や原爆についての悲惨さに、恐怖を感じ、ずっと逃避していました。今回、広島の代表に決定し、少しずつ自分を「変えていこう」と考えるようになりました。身近な曾祖父の戦争体験を、直接、一度も聞くことが出来なかったことを後悔しました。あれから67年、被爆者の高齢化はいつそう進んでおり、貴重な証言を聞き取るのが困難な時代となつてきています。

以前の私のように、逃避しようと考えている若い人たちに現状を伝え、すべての戦争に「NO」と言い、そして「いのちの大切さ」をしっかりと訴えていきます。失つていい「命」などないのです。この世の中から戦争と核兵器が消滅し、一人ひとりのかけがえのない命が守られ、安心して生活できる、明るい未来を築いていきたいです。

### 平成二十四年度 東京農業大学 入学生代表宣誓 新入生代表 矢田貝 貴之 (平成二十三年度 産業ビジネス科 卒業生)

《宣誓をご紹介します》

風も光もすっかり春めき、桜の花咲くこの佳き日、私たち新入生のために、このような盛大な入学式を挙げて頂き、新入生を代表して、厚く御礼申し上げます。

ただ今、学長先生から私たちの入学許可をいただき、歴史と伝統のある東京農業大学の一員になれたことを実感すると共に、喜びと感動の気持ちでいっぱいです。私たちには無限の可能性があります。東京農業大学の恵まれた教育環境の中で、先生方のご指導をいただきながら学友と一緒に、本当に大切な真理を探り、なりたい自分になるための階段を少しずつ登っていくつもりです。

私たちの生きる二十一世紀、長期的で深刻な世界的経済不況、少子高齢化、東日本大震災、TPPなど、これまで直面したことのない、深刻な課題や問題が山積しています。しかし、こういう時だからこそ、東京農業大学の実学主義の理念を大切に、食と農と環境を守る土の文化を進めていくことが重要です。

私たちは、今日の喜びと感動を忘れず、素晴らしい充実した大学生活を享受し、私たちの可能性に挑戦し、一人一人が大きな花を咲かせ、今後の社会に貢献できるように、本学で日々精進していくことをここに誓います。

### 産業ビジネス科の活躍

- ☆日本学校農業クラブ全国大会出場
- ・プロジェクト発表会
- ・農業鑑定競技会
- ☆全国和牛共進会出場
- ・和牛審査競技会
- ☆全国産業教育フェア出場
- ・フラワールンジメントコンテスト